

令和7年度第2回(第38期)浜松市社会教育委員会会議録

1 開催日時 令和7年10月10日(金) 午前10時から11時15分

2 開催場所 浜松市役所本館8階 802会議室

3 出席状況 委員 山本巖委員長、谷口卓副委員長、久保賢治委員、
飛田ひさ子委員、石田みゆき委員、鈴木英之委員、
松井里華委員、内藤明子委員、李受眞委員、澤根緑委員
事務局 嶋野文化振興担当部長、加藤生涯学習担当課長、
天野生涯学習推進グループ長、袴田指導主事、
鈴木主任、田辺主任、新林

4 傍聴者 0人

5 議事内容 生涯学習推進大綱の改正について

6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田指導主事、鈴木主任、新林

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

・生涯学習推進大綱の改正について

■事務局から、生涯学習推進大綱の改正、スケジュールについて説明

■意見・感想・質疑応答

谷口副委員長：

1ページの4行目に「必要に応じて学習する」との記載がある。下から6行目では「それぞれの興味と関心を持って自発的に学ぶ」ことが生涯学習となっている。2ページの中ほどでは「生涯学習は夢や好奇心から始まる」となっている。3ペー

ジの（１）では「興味や関心に基づいて」という言葉が使われている。８ページの基本的な方向性Ⅰと付属資料１では「いつでも、だれでも、希望に応じて」となっている。また、パブリックコメント資料では「興味と関心を持って」となっている。「興味と関心を持って」、「夢や好奇心から」、「希望に応じて」はニュアンスは同じように思うが、「必要に応じて」は少し違うように感じる。ここは変更してよいのではないか。

「夢や好奇心から」と「興味・関心」と「希望」という言葉があるが、「夢や好奇心」と「希望」の２つにそろえていくとわくわくする感じが見えていいように思った。

事務局：

谷口委員の意見のように訂正していくよう検討する。

松井委員：

13 ページの施設は表になってとても見やすくなった。確認であるが、３ページの（５）の１行目に「養われ」が残っているが、ここは「培われ」に修正しなくてよいか。

事務局：

修正していく。

松井委員：

11 ページにはＱＲが３つあり、それぞれが密集している。市のＰＴＡ広報紙の研修では、複数のＱＲが密集しているとカメラでの読み取りが難しくなるため作成の際に注意が必要とのことだった。可能であれば、間を空けるなどしてＱＲを配置するとよいのではないか。

石田委員：

説明を聞く前にこの案を読んだときと、説明を聞いてから読んだときとでは、見方が変わった。一般の方も説明を聞いてから見ると自然に受け入れられるのではと思った。

15 ページ、体系図の基本的な方向性の箇所について、縦書きの場合は右から左に文字を書くが、ここでは左から右になっている。

事務局：

修正していく。

内藤委員：

前回の委員会で指摘があった点等、修正されており、とてもよい内容になった。

前回の大綱はカラーであるが、今回もカラーとなるか。

事務局：

原稿はカラーで作成している。

内藤委員：

前回の大綱には子どもの描いた絵や、イラストが多数あったため親しみやすい印象であった。

李委員：

前回の素案と比べると大変見やすくなった。紙面では、関連資料の箇所に QR があり、読み取ると閲覧できるが、Web 上では関連資料の箇所をクリックすれば閲覧可能となるのか。

事務局：

Web 上では、関連資料の近くに「クリック」という指のイラストがあり、その上の文字を押すと、資料の閲覧が可能になる。

李委員：

目次についても中身にリンクするよう作成すると見やすくなると思う。

事務局：

検討する。

澤根委員：

素晴らしい大綱案ができたと思う。素案を読み返して思ったことは、学習したい、新たに始めてみたいと思った市民一人一人をサポートするためには、やはり情報提供や学習のための環境づくりが欠かせないということだ。

静岡県の社会教育委員会では、社会教育推進のために、学びの場を作る人、学びの場を広げる人、学びの場を支える人の存在が要となるとしているが、浜松市においても、まさにそういった人材の発掘・育成がますます求められている。また、不登校の子どもたちが増えている中で、学校以外にも、例えば協働センターなどを活用した居場所づくりや、その情報提供を私たちの立場で推進していけたらよいと思った。

飛田委員：

生涯学習とはどのようなものか知っているか、職場など身近な人たちに聞いてみたところ、知らないと答える人が多かった。「学校を卒業した後も、社会に出てからも学び続けることができ、そうした学習意欲を国・県・市がさまざまな形で支援

している」という情報を伝えると、多くの方が「そうなのか」と新鮮な反応を示していた。このことから、生涯学習という言葉がまだ十分に浸透していないということを実感した

一方で、浜松市の大綱を見ると、非常に充実したものとなっており、すぐに活用できるような方向性も示されている。優れた取り組みや資源があるにもかかわらず、まだ十分に知られておらず、そこにアクセスする方法が分かりにくいのではないかと感じる。デジタル化が進み、情報を迅速に入手できる仕組みを整えば、生涯学習の取組は飛躍的に広がるのではないか。今後の浜松市の展開に期待している。

李委員：

附属資料の漢字にばらつきがある。

事務局：

統一していく。

久保委員：

国が言っているウェルビーイングと浜松市の生涯学習推進大綱にある幸福度の文言に違いはあるのか。また、大綱案の目指す姿が議論になったが、何をもって幸福度となるのか。今後、自分たちが取組を見直し、さまざまなアンケートを見たときに、「幸福度が上がった」という基準は、アンケートの設計や回答者の感じ方によっても異なると思うが、副題を見ると「人や地域とのつながりの中で、豊かさと安心感を得られるまち」となっており、つながりの中で豊かさと安心感に関するアンケート項目の数値が向上していればいいのか、そのあたりの評価の見方が分かりやすくなるといいと感じた。

また、大綱策定後の目標数値、例えば「何年後には何%」など、6 ページ、7 ページに市民アンケート調査の数値が掲載されているが、それと同様の形で推移を追っていくのか、ロードマップというか目標が現時点であれば教えてほしい。

事務局：

幸福度は非常に測りにくい指標と考えている。評価の仕方については、国・県の動向等を踏まえて検討していく必要があると感じている。

指標の取り方としては、この大綱は市の総合計画の個別計画となり、総合計画の現在の目標指標では開催講座、受講者数、コンテスト入場者数等が指標として挙げられている。見直し等もあるので、指標については検討していく必要があると考えている。

久保委員：

市民アンケート調査の回収率が 30.3%であった。パブリックコメントをしていく中で、どれくらいの意見を得られるかという想定はあるのか。あまり意見がない

ということも考えられるので心配している。これをどれだけ広げていけるか、発信できるかが自分たちの役割とは思っているが、見通しはあるか。

事務局：

これまでのパブコメの実績を見ると、市民の関心度の高いもの、時勢に合ったものについては多くの意見が寄せられるが、意見がほとんど寄せられなかったものもあるので、見通しはつけにくいと考えている。今回の大綱案では市の事業なども紹介をしているので、パブリックコメントを見る人が広がることで市の事業が周知されていくという側面もあると考える。ぜひ委員の皆さんにも周知してほしい。

アンケート回収率について、浜松市全体で広報の行う市民アンケートでは5割を超えれば高いと捉えられている。このような個別計画のアンケートは15%から20%程度とも言われているので、30%というのは回答があった方という感覚は持っている。

久保委員：

学校関係で、可能であれば子どもたちに配るチラシのようなものがあれば周知しやすい。子どもを通して保護者に伝わる。休日の部活動が地域に展開してく中で、子どもたちの居場所というか、そういう講座が増えるといい。中学生は今までは部活動でなかなか参加しにくかったところもあって講座の数も少なかったが、今度はこんな講座が増えるというような発信もしていけるとよいし、それが中学校を通してそれぞれの学校から生徒に行き、生徒から保護者に行くと、こういうものにも目を向けてもらえると思うので、そういうことも考えてほしい。

石田委員：

周知するに当たり、やさしい言葉や短くした愛称をつけることがよくある。地域でも、社協、民児協は短くできるが、地域学校協働活動ボランティアは短くしようがなく、地域ボランティアやボランティアとしている。生涯学習という言葉になじみがなくても、生涯学習がもう少し砕けた形の言葉があるとか、短くしたりした呼称を示してもらおうと使いやすくなると思うが、そういう考えはないか。

地域学校協働活動ボランティアも中学生から入ってもらうことも考えているが、名称が長いので、呼びやすいものがあるとよいと思う。

事務局：

今この場で即答はできかねるが、職員でどれだけアイデアが出るか分からないが、検討したい。

鈴木委員：

文言の一貫性は大事なところであり、使っていると言葉は変化していく。概要の項目の中と具体的な大綱の項目に一貫性があってよいと思う。

生涯学習の理念は、一言で言えば豊かな人生を送ることができるようにすることが一番のような気がするが、それが浜松では幸福度という言葉に置き換わっている。概要の中では幸福という言葉も使われている。豊かな人生から浜松が幸福とか幸福度というところに文言を落とし込んできた経過とか、こういう意図で幸福度を扱っているということが、8ページの目指す姿のところで、幸福度をもって浜松は取り組もうとしているというつながりが分かるというと思う。

豊かさや安心感という言葉があるが、豊かな人生ということで豊かさやうたっているが、安心感が何となく付け足しのように感じる。安心感に対しての評価も出てくるのではというところで、そこが気になった。

事務局：

安心感については、最近では災害も多く、一人暮らしも増えているので、つながりがあれば災害時なども助け合えるというところで、地域とつながることによって安心感が出るということにつなげている。

山本委員長：

目指す姿については、昨年の第4回の委員会で意見があり、メインテーマとサブテーマが入れ替わった経緯がある。

ウェルビーイングは日本語訳でどのような意味となるか。

李委員：

直訳することがなかなか難しい言葉であるが、「主観的幸福感」、「よく生きること」と訳されることが多い。1ページの注意書きにあるが、肉体的、精神的、社会的に満たされた状態のことを指すQOL(クオリティオブライフ)とつなげて説明されていることが多い。

山本委員長：

8ページのイメージ図について、一方通行の矢印になっているが、個人の幸福、仲間の幸福、地域の幸福、社会の幸福はそれぞれ関連し合っているので、一方向の矢印ではないように思う。いいアイデアはないか。

李委員：

全て双方向の矢印とかは。

久保委員：

矢印をなくし、サークルでつなげた表現がよいのでは。

事務局：

検討する。

山本委員長：

障害者への配慮が読み取れるのかと思う。ユニバーサルデザイン化の推進の表現だけでよいのか、もう少し障害を持った人にもこういう学習の機会があるということが読み取れるといいのではと感じたがどうか。

事務局：

「いつでも、だれでも」との表現により、その人の状態を区別せずという考え方で作成している。

澤根委員：

世の中が共生社会に進んでいるので、少しでも障害という言葉が入ったほうが、当事者の人たちにも響くのではないか。

谷口副委員長：

子どもから高齢者までのところに、障害の有無を記載することで含まれるのではないか。

李委員：

障害を入れるとしたら、共生社会は性、文化など全て含めた概念なので、その他の少数のマイノリティを指す言葉も入れたほうがよいのでは。

飛田委員：

事務局としてはそういう人も全部含めて「だれでも」という表現をしていると思う。障害を持つ人からは、自分は障害なんて言われたくない、何も不便ではない、区別してほしくないという声も聞く。あえて障害という言葉をつけなくてもよいと思う。

松井委員：

表紙の絵にも車椅子テニスのイラストが載っている。もしイラストを増やすのであれば、関連するところにこういうイラストを入れるだけでも違うのではないか。

山本委員長：

前回の大纲では、子どもの作品の絵にも車椅子が載っていたりする。

事務局：

言葉で入れるか入れないかは賛否が分かれると思う。イラストを入れるだけでもイメージが変わると思うので、検討する。

4. 連絡・報告事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・生涯学習推進大綱パブリックコメント予定

令和7年11月19日(水)意見募集開始～令和7年12月19日(金)募集終了

- ・第67回全国社会教育研究大会(岩手県)について
- ・第56回関東甲信越静社会教育研究大会(神奈川県)について
- ・次回、社会教育委員会開催予定 第3回：令和8年1月開催予定

5. 閉会